

新しいことをされる主



副学院長

世良田 湧侍

「先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。」(イザヤ43・18)

新しい年を迎えました。新しい年に新しい事をされる主を仰ぎます。今年のビジョンを高く掲げて前進いたしたく存じます。教会の使命を果たし、信徒一人ひとりが強くされる恵みの一年でありたいものです。

Ochanomizu Bible Institute

OBI

お茶の水聖書学院

NEWS

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル 2F
TEL 03-3296-1005
FAX 03-3296-4641
e-mail office@obi-net.com
Web http://www.obi-net.com
お茶の水聖書学院
お茶の水聖書学院後援会

この箇所はイザヤ40章から43章にかけて、バビロン捕囚ですさんだユダヤ民族の心にイザヤが慰めのメッセージを語りかけ、帰還する際に、過去を忘れ、新しいことに目をとめて荒野に川が流れることを求めるようにと励ましたところであります。

「わたしが荒野に水をわき出させ、荒地に川を流し、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。わたしのために造ったこの民はわたしの栄誉を宣べ伝えよう」(イザヤ43・20、21)

20世紀になって諸国から移住したイスラエル人たちは、荒廃した祖国建設のためにぎょう柳の木を一本一本植えて行きました。それは荒地が沼地であったため、マラリアの媒体となる害虫にえさを与えないための対策であったと聖地旅行で聞きました。「砂漠に川を流す」の預言のように、ガリラヤ湖の水をポンプで引

き揚げ灌漑用水として国土の西側を潤しているとのことでした。

今の時代はますます霊的な暗黒となっておりませんが、お茶の水聖書学院(OBI)は、闇の中に輝くともしびとして聖書を高く掲げ、燦然として遠くまでも照らす灯台のような存在でありたく願っています。光輝く民、神に贖われた民、神に新創造された民として、「主に仕え教会に仕え」、世にあつては「地を潤し」、「輝くともしび」として存在させていたいただきたいものです。

昨今のOBIは、世代の交代の時期となっております。新しく若い教師、学院生、スタッフが加わって次第に若返ることができるよう祈ります。諸教会におかれましての一層のお祈りとご協力、ご支援を期待しております。新しい年に、主の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。

チャペルコンサート

本科2年 中城昭治

夏休みが終わりOBIの授業が再開され、暑さがまだ残っている9月20日、お茶の水クリスチャンセンター8階チャペルで、秋のチャペルコンサートが開かれました。

私の住んでいる西多摩地域では、聞く機会が少ないベアンテ・ポーマン先生のコンサートということで早めに会場に行きました。

快い涼しさの会場内でコンサートが開催されました。ベアンテ・ポーマン先生の静かでありながら力強いチェロ演奏とピアノの伴奏が始まり、会場全体の空気に応答する曲が次から次へと演奏されました。

聴く一人一人の心に合わせられているかのような曲目が選ばれて、会場が森の中の温かな教会で演奏会が行われているような雰囲気でした。心が平安で満たされ、霊的な礼

拝のような素晴らしいコンサートでした。

教会音楽デー

音楽講師 近藤はるみ

第9回となった教会音楽デー。今年は11月24日の祝日に「讚美にあふれた音楽のために」というテーマのもと、岳藤照子先生を講師にお招きし、礼拝の奏楽者のつとめ、選曲、オルガン奏法などを、先生のお話と、学院生による公開レッスン、また、照子先生と学院講師によるコンサートを通して学ぶ機会を持たせていただきました。

今回は、オルガン奏法を学ぶということで、パイプオルガンがある、練馬バプテスト教会の礼拝堂を goed 意でお借りすることが出来て、パイプオルガンによる公開レッスン、また、コンサートをさせていただけたことは、大きな恵みでした。

当日は、生憎の雨模様の天候でしたが、20名の方々がお集まりくださり、熱心に、講義に、公開レッスンに耳を傾けていらつしやいました。

長い年月、教会音楽の奉仕を通して、主に仕えてこられた、先生の信仰のあり方から多くを教えていただいた貴重な学びのひとときでした。

クリスマス祝会

第6期卒 三浦秀彌

12月11日、時代状況が一段と暗さを増す中で、OBIクリスマス会が開かれた。

「諸人こそりて」の会衆賛美の後、学院長の挨拶。「私たちの主イエスが来られる時、その御前でいたいあなた方以外の誰が、私たちの希望、喜び、そして誇るべき冠でしょう。実に、あなたがたこそ、私たちの誉れであり、喜びです」第一テサロニケ2章19

20節のOBIスピリットで締め括られた。

日々、終りの日に備えて聞くメッセージが多くなってきた。今日もまた深い慰めのお言葉に恵まれた。

愛餐会は純和食であり美味しくいただいた。

食後、会衆賛美、独唱、聖書朗読と続き、イエス・キリストのご降誕をお祝いした。

堀肇師が「イエスの受胎告知」と題し、メッセージされた。ルカ1章26、38節の御言葉が朗読され、マリヤの理性を越えた信仰について語られた。マリヤは御使いの言葉に即座に応答、自らを明け渡す「神信頼の希有な人」であった。聖霊によることである、と話された。

副学院院長世良田湧侍師の祈り、西満先生の祝福、お別れは「きよしこの夜」を全員で賛美し、メリー・クリスマス！で閉じられた。この世の暗さ、冷たさを覚えることが日々多いだけに、慰められ、心温まる一時を過ごすことができた。ハレルヤ！

キリシタン殉教の地を旅して

第13期卒 日名富子

福江島は、思いのほか平地が多く、小さな島ということを感じさせない。山並が緑の稜線を描き、空は広々としていた。島の北、奥浦湾の海に突き出たところに、赤レンガ、ゴシック様式の堂崎天主堂がひっそりと建っていた。

堂内はキリシタン資料館となっており、命がけで信仰を貫いた人々をしのぶことができる。聖壇の下部に長崎西坂での殉教者、二十六聖人のひとりヨハネ五島の「聖骨」が展示してあった。骨壺を想像していた私は、そのアクセサリ風の展示物に見入ってしまった。

それは柱時計ほどの大きさで、楕円形の淡紅色の石に白骨がはめ込まれ、上部に十字架のついた金で縁取りがしてある。子どもの拳ほどの大きさの灰白色の骨が中心にあり、それを囲むように十二個の細かい骨が一つずつ宝石のようにはめられてあった。よく見ると、その中の一つは黒い。十二使徒を表しているのだろうか。水之浦教会は白石湾の入り込んだ丘の上にある。会堂の右手をさらに上ると、湾を一望できる斜面に墓地があった。

ここで珍しい紅白のヒガン花を見つけ、私はしばらく見とれていた。線状の花弁

の中心が赤く、両縁が白いヒガン花が一輪だけサマーポインセチアの中から顔を出している。

クリスマスの花であるポインセチアの中に咲く、紅白のヒガン花は、白亜の教会堂にまことにふさわしく思えた。

三井楽町の岳教会はモザイク壁画で彩られたモダンな教会である。会堂の近くに小さな資料館があり、隠れキリシタン時代の迫害を描いた線画が何枚も展示してあった。残酷な拷問や刑の執行の描写に、私はその場に直視していることができなかった。

二日目の午後、高速船で長崎に渡り、島原の乱の舞台となった原城跡に行く。斬殺の歴史を物語るように、今でも発掘をすると人骨が出てくるといふ。本丸跡の高台から有明海を眺めると、白い波頭が砕け散っていた。

天草下島の大江天主堂は、私たちを見下ろすように小高い丘の上にあった。キリシタン解禁後、復活の中心地となった教会は、今もロマネスク建築のドームの上に、白い十字架が厳として立っていた。

今回訪れた教会は天井の高い壮麗な会堂ばかりで、それぞれ色鮮やかなステンドグラスの図柄に建堂の趣意がこめられていた。

牢屋の跡や、踏み絵の行われた場所に、受難の歴史を刻むように教会が建てられ

ている。まさに世が捨てた石が、礎の石となったのである。迫害から解放されたキリシタンの痛みと喜びが伝わってきた。恵みの時代に生かされながら、ささいなことで心を騒がせるちっぽけな信仰を自問する旅となった。



五島福江島・後方は大瀬崎灯台

学窓トピックス

教務・福井 誠

・聖書科・通信科・音楽科

秋のボーマンコーサントが無事終了いたしました。

128名の方々が参加されました。ご協力に感謝を申し上げます。

○ OBI聖書の世界研修ツアー「ローマをめぐるパウロから現代までの教会の歩みを辿るイタリアの旅」目で観て感じる教会史―を2009年2月9日(月)～16日(月)の日程で開催します。参加者募集中です。団長は本学院で教会史を担当する横山武師、チャプレン

は副学院長の藤原導夫師です。聖書科本科に所属する参加者には、希望により聖書科科目履修単位(2単位)が認められます。奮ってご参加ください。

○ 教室の「おびねっと」で、認定単位確認、履修登録ができるようになります。またインターネットで履修登録ができます。ご不明な点は、お気軽に教務の福井までお問い合わせください。

educationaldpi@bi-net.com

○ 新年度のカリキュラムが決定いたしました。次年度の履修登録は3月からインターネットでも可能です。

	火	木	金
11:00～ 12:30	ヨハネの福音書講解 増田 誉雄	旧約聖書の思想と概説 創世記～サムエル記 (本科必修)西満	パウロ書簡 テモテ、テトス 福井 誠
13:30～ 15:00	サムエル記解説 世良田 湧侍	キリスト教会の源流を訪ねて 使徒の働き 藤原 導夫 研究科 プロテスタント150年史 (増田 誉雄)	神学を学ぶ喜び 聖書基本教理入門 伊藤 淑美
15:30～ 17:00	ギリシャ語入門 野口 誠	図解 聖書と生き方 中島 總一郎	聖書が語る人間論 山口 勝政
18:30～ 20:00	家族関係論入門 堀 肇	小預言書解説 ホセア書～マラキ書 水口 功	パウロ書簡 コリント書、 福井 誠

主と教会に仕える同窓生たち

者として
とらえ、

第14期生 小林則義

私は、2007年春OBIを卒業しました。思い出せば夢中で勉強し、靈的にも知的にも祝福された時が与えられました。「主の恵みとあわれみは尽きない。それは朝ごとに新しい」「今日も新しい学びを導いて下さい」と熱い祈りをもつて学んだことは、いまだ忘れられません。現在は、教会で奉仕しつつ、日本基督教団の神学校で学びを継続しておりますが、OBIの学びは、私の基礎となっています。

教会での奉仕は、礼拝、夕拝での説教、祈祷会での奨励、「子どもの教会」のリーダー、福祉施設、老人ホームの訪問、カウンセリングなど様々です。とくに「子どもの教会」は大切な奉仕のひとつと考えています。子どもをひとりの信仰

短時間で「分かりやすく」「楽しく」「聖書の中心メッセージ」を語ることの大切さを覚えていきます。この夏、2ヶ月間奉仕した教会では、「子どもの教会」とは別に、通常の礼拝の中に「子どものための説教と祈り」がありました。百名を超える大人と子どもが一同に会し、礼拝する姿には感動するものがありました。感謝なことに、私もこの素晴らしい奉仕に何回か与らせていただきました。

また私は毎月「トラクト」を発行しています。これはOBIで学んだ成果の一つですが、「証し文章講座」が今役立っています。毎月書くのは時には大変ですが、主が書かせてくださることを信じて続けています。拙い文章ですが、読んで下さった方に感謝されると、次号への意欲がまた湧いてきます。「トラクト」は毎月200部発行し、教会関係、

神学校関係、訪問先などで用いていたいただいています。

私は、教会での奉仕や学びにおいて、いつもOBI入学当初の献身への思いを確認しています。当時ヘンリ・ナーウエンから多くを教えられました。

「現代社会は、神や教会を必要としないかのように見えます。この世の力は、すべてのことを掌握しているかのように振舞っています。この世で足りないところは、一生懸命働いて何とかすればいい、大切なのは、信仰ではなく能力であると言っているかのようです。病氣に対しては有能な医者、貧しさには有能な政治家を、紛争や戦争には有能な外交官が必要なのだといっているかのようです。」

しかし、「この世の見せかけの富、成功、権力の裏にあるものは憎しみ、妬み、裏切り、倦怠、あきらめなどです。」「クリスチャンの使命は全ての華やかな成功の陰にある、悲惨、

苦悩と連帯し、そこに主イエスの光をもたらすことだと信じています。」

ヘンリ・ナーウエンは、献身にあたって、私に進むべき方向を示してくれました。時に多忙さの中に疲れを覚え、自分の力で何とかしようともがく自分に気付かされますが、これからも主イエスとの絶えざる交わりの中に、働きの源泉を求め続けたいと思います。「主の恵みとあわれみは尽きない。それは朝ごとに新しい」

(哀歌3章22節23節)



向かって右が小林兄、左がご長男

映画 神学的テーマから見ると



本学院講師
伊藤淑美

映画に対する神学的考察に示唆を受けたのは、6年前に旧知の友人であるフラー神学大学院のロバート・ジョンストン教授から聞いた講演でした。

デューク大学院で「神学と映画」のテーマで博士号を取得した同師は、来日した際の特記記念講演で、黒沢明監督の「生きる」(1952)から主人公志村喬の生き様を通して人生の意味と可能性と、死の現実性に関する深い普遍的な知恵を描いた痛いほどの美しさを持った作品であるとのべ、神は一般啓示を通して真理を教会だけに限定されたのではなく、教会外の人々が持つ霊的な洞察力にも与えられた事実注意到注意を払う必要があることを力説されたのです。神学的に言えば、映画もまた神の一般恩恵の道具(器)のひとつであり、神は作品を通してご自身の愛と

恵みとを私たちに示してくださっているというのです。

講演後、映画を単なる娯楽としてではなく、「神学的テーマ」から見る面があることを教えられました。ゴスペル・ソングのひとつに「神は全世界をご自分の御手に保っておられる」というのがありますが、すべての真理は神の真理であることを忘れてはならないと思います。主はご自身の愛と恵みをわたしたちに伝えるために、映画を含めた被造物を用いられるのですから。

「見る目を持つ者」にとつては、神は映画の中にも臨在する、と同師は夫人との共著「映画の中に神を見いだす」(ベーカー・ブックス2004)で指摘しています。同書で取り上げられている33本の映画作品のうち、すでに廃盤となったものを除き、DVD22本(大半は洋画で、邦画は宮崎駿監督のアニメ「千と千尋の神隠し」1本のみ)をレンタルと個人的に購入したもの合わせて鑑賞しましたが、それらの中で取り上げられた神学的テーマは、多岐にわたっており、興味深いものがありました。いくつか例をあげてみま

すと、「神の存在を問うもの」(パッチ・アダムス)、「神の恵みとゆるし」(シヨコラ)、「救い主のイメージ」(この森で、天使はバスを降りた)、「人生の選択」(恐怖の彼方)、「人間性を問う」(ライフ・イズ・ビューティフル、アミスタッド)、「和解」(ストリート・ストーリー)、「信仰」(テnder・マシーズ)、「信仰と疑問」(奇蹟の詩、サイン)、「信仰で生き抜く」(危険な年)、「友情」(幸せになるためのイタリア語講座)、「教会の霊的刷新」(天使にラブソングを!)などがあります。

これらの作品以外にも、「希望を持ち続けること」(ショウシャンクの空に)、「シンドラーのリスト」のアフリカ版と言われた「自己犠牲の精神」(ホテル・ルワンダ)、「被造物の保護」(グース)、「賛美による教会の刷新」(フットルース)、「救い主のイメージ」(フォレスト・ガンプ)などを見ましたが、いずれもそれなりの深い感動と感銘を覚えました。

ジョンストン教授は、クラスで前述の「ストリート・ストーリー」を取り上げて討論したところ、後日、二人の神学生が、それぞれの家族との和解を経験した、と証しをしたとのことでした。私たちの人

生に関わる神学的テーマを、映画の物語あるいはドラマを通して教えられ、考えさせられるとき、それらは私たちを行動に駆り立てるすばらしい霊的な経験となるのです。

前置きが長くなりましたが、本題である映画を神学的に考察する具体的な事柄を少しく考えてみたいと思います。神学的テーマとは、神学概論的に言いますと、啓示論から始まって、聖書論、神論、人間論、キリスト論、救済論、教会論、終末論と続くわけです。各論の内容の中には、キリスト論を例にとりますと、キリストの人格(神人両性と統一)とみわざ(贖罪と復活)などが含まれています。さらに細分化して考えることができます。

上記の映画が、これらのテーマを命題的に正面切って取り上げているわけではありません。むしろ史的な実話、ロマンチック・コメディ、ロード・ムービーなどのさまざまなジャンルの作品の中で、構想、登場人物、音楽、色彩などをおして神学的テーマが画面を通じて伝わってくると言えます。監督たちのコメントの中にも「意図したものが受け止めてもらえた」「そういうふうに見てもらえ

るとは想定外だった」と違いがあるので。要は「見る目・聞く耳」をもって鑑賞することが必要であり、また重要であると言えるのではないでしょうか。前回でも述べたことですが、聖書的そして神学的な視点が欠落すると、せっかく良い作品を見ながら、もつとも肝心なメッセージを見落としてしまう危険性があるのです。この点については、次回に取り上げてみたいと願っているいくつかの作品で触れます。

避けるべき内容のものは避け、注意すべきものには配慮をした上で、作品の描くストーリーや人間性を新鮮な角度から見るときに、「神との出会い」を経験させられることがあるのです。映画鑑賞を通してわたしたちがゆるし、和解、友情、信仰、生きることなどを経験するとき、それは霊的な経験となることを意味します。感動を覚えて喜びに浸り、また涙を流すとき、「神の臨在のもと」に導かれることも起きると言えましょう。また作品において語られているメッセージを聞き、聖書と比較対照するとき、得ることが多々あると言えます。一例をあげましょ

う。過日、インターネット上で、テキサス・オクラホマ両州で急成長を遂げているある教会のウェブ・サイト(ホームページ)を見たところ、掲載されている主任牧師のいくつかの説教の中に、前述の『恐怖の彼方』の原題である「The Abyss」(恐れのない意)―人生のもろさとともに神との関係を考えさせてくれる―とあったので、読んだところ、第二モテ1章7節の「おくびょうの霊」をひいて、キリスト者の信仰生活のあり方が力強く解き明かされていました。

米国の教会では最近、キリスト教教育、青年への伝道などの有効な手段として映画が広く用いられており、良き映画は信仰と人生をさらに深く理解するための状況を提供しているとのこと。小生も教会員のご好意により家庭を開放していただいて、秋から隔月でDVDによる映画鑑賞会を始め、求道者の方たちやお子さんも交えてのじんまりした集いを通して、教えられまた考えさせられた事どもを分かち合う交わりを持たせていただき感謝しています。みなさんもトライしてみてはいかがでしょうか。

OBI会計報告

主の御名を賛美いたします。いつもOBI会計のためにご支援、ご加禱を賜りありがとうございます。第8期9ヶ月間(2008年3月1日～2008年11月30日)の収支状況をご報告いたします。

教員・スタッフが一致して、OBIの学院としての充実に、さらなる努力をしてまいります。何卒、今後とも関係各位の御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。(OBI会計)

第8期収支報告 (2008年3月1日～2008年11月30日) (単位:円)

当期収入	
授業料収入	7,050,465
行事収入	702,400
献金収入	8,002,099
助成金収入	2,250,000
その他収入	46,427
後援会献金	800,000
収入計	18,851,391
当期支出	
学事支出	7,712,877
行事支出	733,866
経費支出	8,004,382
その他支出	240,716
支出計	16,691,841
収支差額	2,159,550

OBI後援会献金御芳名録

夏季献金(2008.8.6以降)

手島浩 脇坂勇 西口修八 戸川偕生 奥津晃
山本しづか 西川和子 中村良子 藤村陽子
伊地智恵子 森井あずさ 国松裕子 梅沢近子
小澤ナオミ 菊田洋子 石塚幸子 国東恵子
波崎キリスト教会

後援会維持会員

(2008.8.6～2008.12.30)

有田貞一 有田美榮子 飯島多稼夫 猪狩友行
小野沢恵子 金本悟 木下順子 国東恵子
窪井節子 小林喜久男 斉藤とし子 佐藤敬
佐野謙次 佐野寿美子 須子都 関節子 西満
世良田湧侍 田中恵子 中川和代 浪井弘子
平松庸一 福井誠 藤原導夫 増尾善文
増田誉雄 松岡常子 三浦喜代子 三浦秀彌
宮本三枝子 目崎由紀子 森登 森本靄
依田和子 植木朋子 芳賀功 中島總一郎
日名富士

後援会協力会員

羽鳥明 脇坂勇 山口勝政 近藤はるみ
中山キリスト教会

冬季献金

増田誉雄 藤原導夫・智子 高野富男 宮内芳枝
宮本三枝子 加茂康一・早苗 島田裕子
山本しづか 田畑勝敏 田中美枝子 西満
梅澤近子 高橋まりか 大淵セツ 稲垣緋紗子
米田由起子 小林由貴子 奥津晃 横田孝子
三浦秀彌 恩田千恵子 玉松陽子 吉田加代子
伊藤淑美 森本靄 三浦喜代子 窪田淳子
生田今日子 世良田湧侍 中島總一郎 福井誠

増尾善文・邦子 戸川偕生 砂谷智枝
猪狩友行・多佳子 手島浩 関節子

滝田幸枝 川村和臣 飯島多稼夫 中城昭治
伊地智恵子 日名富士 遠藤かおる 安藤谷子
平松庸一 町田恵子 植木朋子 倉沢薫代
脇坂勇 市川北バプテスト教会

OBI協力献金

中島總一郎 大澤克哉 吉田加代子 石塚幸子
加茂康一・早苗 高橋まりか 玉松陽子
西口修八 戸川偕生 恩田千恵子 萩原滋
横田孝子 加賀谷紀子 藤村陽子 小宮悦子
シムス・由希子 小玉久美子 蟹江みつ子
三浦秀彌 鶴瀬恵みキリスト教会
腰越独立教会

指定・感謝献金

堀肇 三杉富士 砂谷智枝

後援会からお願い

『OBIを祈り支える後援会』は今日まで皆様方の熱いお祈りと献金によってOBIを支えてまいりました。深く感謝申し上げます。今後ともいっそうのご協力をお願い申し上げます。

新しい維持献金者を求めています。郵便預金から自動振替の手続きをしていただけなら幸いです。金額は一口千円からです。

ご賛同、ご協力いただける方には、所定の「自動払い込み利用申込書」をお送り致しますので、OBI事務局までご一報いただければ幸いです。

03.3296.1005